

産業建設委員協議会記録	
開 会 年 月 日	平成 25 年 9 月 25 日
開 会 時 刻	午前 10 時 9 分
閉 会 時 刻	午前 11 時 14 分
出 席 委 員 名	◎小山 敏 ○岡田 善行 吉井 詩子 品川 幸久
	山根 隆司 上田 修一 工村 一三 山本 正一
	世古口新吾
	杉村定男議長
欠 席 委 員 名	
署 名 者	な し
担 当 書 記	中野 諭
協 議 案 件	お白石持行事について（報告案件）
	平成 25 年伊勢市の観光入込客数（神宮参拝者数） について（報告案件）
	サン・サポート・スクエア伊勢へ企業の進出について （報告案件）
説 明 者	産業観光部長、産業観光部理事、産業観光部参事、 観光企画課長、観光事業課長、観光事業課副参事
	都市整備部長、都市整備部次長、交通政策課長
	消防長、消防次長、二見総合支所長、その他関係参与

☆協議経過並びに概要

小山委員長開会宣言及び会議成立宣言後、直ちに会議に入り、協議案件として「お白石持行事について」、「平成 25 年伊勢市の観光入込客数（神宮参拝者数）について」、「サン・サポート・スクエア伊勢へ企業の進出について」の報告を当局から順次受け、若干の質疑を行った後、聞きおくこととした。

なお、概要は次のとおりです。

開会 午前10時9分

◎小山 敏委員長

ただいまから産業建設委員協議会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので会議は成立いたしております。

それでは会議に入ります。

本日御協議願います案件は、「お白石持行事について」、「平成25年伊勢市の観光入込客数（神宮参拝者数）について」及び通知にはございませんが、「サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出について」の報告案件3件でございます。

議事の進め方につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎小山 敏委員長

御異議なしと認めます。

そのように取り計らわせていただきます。

委員間の自由討議については、申し出がございましたら随時行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【お白石持行事について】

◎小山 敏委員長

それでは、「お白石持行事について」の報告をお願いいたします。

産業観光部長。

●三浦産業観光部長

本日は、委員会終了後、お疲れのところ、また、何かとお忙しいところ産業建設委員協議会を開催いただきまして、まことにありがとうございます。

本日御報告申し上げます案件は、先ほど委員長仰せのとおり「お白石持行事について」と「平成25年伊勢市の観光入込客数（神宮参拝者数）について」及び「サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出について」の3件でございます。

なお、詳細につきましては、担当の副参事、課長、理事からそれぞれ御説明申し上げますので何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

◎小山 敏委員長

観光事業課副参事。

●岩村観光事業課副参事

それでは、ただいまからお白石持行事の実施結果につきまして御報告させていただきますので、資料1-1をごらんください。

まずはじめに「1 参加人員等について」ですが、地元奉獻団は77団で、内宮奉獻は8日間、外宮奉獻は8日間の計16日間で、参加人員は15万3,000人でした。

また、特別神領民につきましては、内宮奉獻が11日間、外宮奉獻は9日間の計20日間で実施し、参加人数は7万3,000人で、地元奉獻団と特別神領民の合計参加者数は22万6,000人ございました。

なお、日別の参加人員等の詳細につきましては、資料1-2に添付をさせていただきましたので、後ほどごらんください。

続きまして「2 救急搬送の人員数等について」でございますが、酷暑の中、内宮奉獻では100人、外宮奉獻では33人、計133人の方を救急搬送していただき、133人のうち、約7割にあたります87の方が、熱中症の疑いが原因でありましたが、幸いに大半の方が軽症で済みました。

また、本部テントにおきまして看護師が救護の処置をした人数は、内宮奉獻は283人、外宮奉獻では168人で計451人でした。

なお、日別及び地元奉獻団、特別神領民別の救急搬送人員は資料1-3を、また、日別の救護処置人数は、資料1-4を後ほどごらんください。

続きまして「3 特別神領民におけるボランティア数等について」御説明させていただきます。

受入、もてなし、奉曳、誘導、救護、木遣り、奉曳補助、奉獻、サポート、給水など多くの役割があった中、本当に多数の方に協力していただきまして、1日約500人で20日間延べ約1万人の方々に協力をしていただきました。

実日数は表のとおり、受入は338人、もてなしは445人、奉曳・誘導・救護は975人、木遣り・奉曳補助等は687人で、奉獻は252人で、サポートは138人、給水は324人で実日数の合計は3,159人となります。よりまして1人平均約3回程度、ボランティアに協力していただいたこととなります。

続きまして裏面の2ページをごらんください。

「4 環境清掃について」でございますが、多数の参加者、観光客等を想定し、仮設トイレを内宮奉獻は8カ所85基、外宮奉獻は8カ所97基を設置し、また、その日の奉獻の最終でございますが、奉曳車通過後に清掃員による、ごみ掃除を行い、沿道の皆様に御迷惑をかけないように対策を講じさせていただきました。

続きまして「5 交通対策について」でございますが、対策といたしまして内宮前など及び外宮の駐車場がお白石持行事のため駐車場として使用できなくなったために、一般観光客の駐車場を臨時的に確保するとともに、観光バスなどを円滑に誘導することを実施し、交通渋滞の緩和に努めさせていただきました。

内宮奉獻につきましては、伊勢あさま苑横、伊勢安土桃山文化村、サンアリーナに臨時駐車場を設け、パークアンドバスライドを内宮奉獻期間中、12日間あったわけでございますが、その中で5日間を無料にて実施させていただきました。

シャトルバスの運行コースは、サンアリーナ周辺の各臨時駐車場から市営宇治第1駐車場まで巡回し、運行時間は午前11時から15時30分まで行い、大型バスの台数は、1日30台で運行しました。

「③ 特別神領民バスの対策」は、内宮前駐車場及び五十鈴公園球技広場で待機していただきました。

「④ 臨時駐車場」につきましては有料におきまして、神宮工作所駐車場に330台、グリーントピアに660台、県営体育館駐車場に130台、修道小学校に230台の計1,350台を開設いたしました。その結果としまして、パークアンドバスライドを実施した5日間におけるサンアリーナ周辺の④、⑤、⑥の駐車台数は延べ3,839台であり、利用者数は1万1,771人で、⑥のサンアリーナの利用は高くなっておりました。

また、最大渋滞長は国道23号線におきまして、8月11日は2.6キロ、御木本道路は8月12日に2.3キロ、伊勢磯部線は8月3日に0.8キロ、御幸道路は7月28日に0.3キロが最大でありましたが、伊勢自動車道及び伊勢二見鳥羽ラインでの渋滞はございませんでした。

続きまして3ページをごらんください。

外宮奉獻におきましてですが、お白石持行事の全日程の10日間シャトルバスを運行し、運賃及び臨時駐車場は無料といたしました。シャトルバスは2コースにて運行し、④は神宮貯木場からシティプラザ前までと、⑤は宮川堤公園から三交百貨店跡地前まで巡回し、運行時間は神宮貯木場からシティプラザ前は午前7時から17時まで、また、宮川堤公園から三交百貨店跡地前のコースは午前9時から16時まで行いました。

バスの台数は、神宮貯木場発のマイクロバスは、平日は3台から4台で運行し、休日は5台で運行いたしました。

「② 特別神領民バス等の対策について」は、特別神領民を乗車させたバスを今社公園前から宮川左岸へ回送いたしました。

「③ 臨時駐車場」は、無料にて厚生小学校に130台、念法寺に60台、神宮貯木場に270台、明倫小学校前駐車場に60台、伊勢市駅前の駐車場に90台、宮川堤公園に400台の計1,010台を開設いたしました。

その結果としまして厚生小学校、念法寺、明倫小学校前駐車場、伊勢市駅前の駐車場の利用が高くなっておりました。

最大渋滞長は、伊勢磯部線におきまして小田橋からソリ曳が行われました8月17日、18日に、祖霊社前から0.2キロの渋滞がございましたが、鳥羽松阪線、御幸道路におきましては、渋滞は見られませんでした。

このように内宮・外宮の奉獻におきまして、お白石持行事の期間中におきましては、大きな渋滞もなく行事を終えることができました。

続きまして、交通規制におきましては、市民の皆様に変御迷惑をおかけしましたが、表のとおり、規制看板や誘導看板の設置と警備員の配置を行いました。

次に交通規制に係る広報についてでございますが、交通案内図を新聞に折り込みさせていただいたほかに、各種メディアを通じまして公共機関等々へ促進を含め、啓発に取り組みをさせていただきました。

以上におきましてお白石持行事の実施報告とさせていただきますが、関係機関に配付をさせていただきました、こういった、お白石持行事の概要や特別神領民の実施マニュアル、また、交通規制マップを添付させていただきましたので、後ほどごらんいただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、お白石持行事の運営にあたりまして、本当に浜参宮からお白石奉獻まで、ボランティアを含めました多数のスタッフが一丸となりまして協力していただきました結果、地元奉獻団、特別神領民ともに大きな事故もなく無事盛大に行事を終えることができました。まことにありがとうございます。

また、今後とも皆様に御指導御意見をいただき、遷宮関係の事業を進めてまいりますので一層の御支援をお願い申し上げます御報告とさせていただきます。

何とぞよろしく願いいたします。

◎小山 敏委員長

ありがとうございます。

本件は、報告案件でございますが、特に発言がありましたらお願いします。

山本委員。

○山本正一委員

今るる説明があったのですが、この遷宮対策室としてあなたが今報告をされたのですが、これ当然ハードの面とソフトの面があると思うのですよ。あなたが今、ハードの面で何も滞りなく終わったということですが、ソフトの面があなたは全く述べられておら

んと思うんですわ。そうするとやっぱり63回に向けてのあなたらの遷宮対策室としての、63回に向けての反省点とか、こんなことがちょっとあったんやというようなことが、やっぱりそこら辺も報告をせんと、ハードの面で全てよかった、よかったということにはならんと思うのですよ。ソフトの面であなたのところにも苦情が来ておったのはどんなことやったかと、それでそれに対して、第63回に向けて、こういうことを直していかんかんとというようなこともあわせて報告をしてもらわないかんとおもいますよ。

◎小山 敏委員長

観光事業課副参事。

●岩村観光事業課副参事

今言われましたソフト面につきましては、確かに内宮奉獻におきまして非常に時間的な関係が、計画されておりました時間より長くなってしまったということが原因の1つに挙げられるわけですが、今後そういったことにつきましては、今各担当部署におきまして、いろいろと整理をさせていただいた中で、この62回の反省を63回に向けて出さないようにということで、実績の報告書あるいは引継書等を作ってまいりたいというふうに考えておりますのでよろしくお願いいたします。

◎小山 敏委員長

山本委員。

○山本正一委員

いや、そこまでわかっとなのやで、どういう改善をしていくんやということが、報告書やら云々よりも、もう原因がわかっとなのや。そやで、その改善方法を63回に向けてどういうようにしていくんやという報告をしてくださいと、こういうことを言うておるわけや。今していますと言うのなら、ハードの面で実施報告を出しておるのなら、ソフトの面でもこういうことがあったんやけれども、今回こういうことを、63回に向けてはやっていくんやということがないといかんやろ。もう1回ちょっとどう。

◎小山 敏委員長

副参事。

●岩村観光事業課副参事

委員、おっしゃられるとおりなのでございますが、確かに今学区的にも1地区で学区代表が1名とかいう学区もございまして、9とか10ぐらいの町が学区代表になっておるといふところもございまして、そういったことも精査しながらですね、63回に向けて

は考えていかなければならないのかなというふうに思っておる次第でございます。

◎小山 敏委員長
山本委員。

○山本正一委員

ようわからん。何を考えていくんや。学区代表は各市区、学区代表がありますやんか。そやけど遷宮対策室として、その遅れたことに対して、63回はあのようなことのないよ
うにということの答えを出してもらわんといかんやんか。だから学区代表は関係あるん
かな。そういうことやろ。やっぱり私は何でこんな話を、ソフトの面で言うかという
と、20時過ぎにもなった団もあるわけや。そうするとよそから来てもらって、お伊勢
さんに奉獻したいんやという熱い気持ちで来たにも関わらず、あの御神様が真っ暗で
見えやんだと。それでもう1回ぜひさせて欲しいというような熱い思いもあるわけや
んか。あなたそういう実情も知っておるわけやんか。それを63回に向けて、どうい
うように、具体的にこういうことにならないよにということの話をしてもらわない
かんやんか。知っておるんやで、原因はもうわかっておるわけやで。

いわゆるその各団の学区代表云々という話ではないやんか。あんたのところは遷宮
対策室として、どのようにそれを改善していくのかということ報告してもらわない
かんやんか。そういうことやろ。

◎小山 敏委員長
観光事業課副参事。

●岩村観光事業課副参事

今ですね、そういったことに向けてはですね、御存じのように朝会ということで委員
会、常任委員さんの方々にも集まっていたきまして、水曜日の朝に毎週会議をさせ
ていただいておりますけれども、今そういう中で意見としては確かに意識と
かモラル的なものというのが欠けているところということもございまして、そうい
ったところを一緒にしたらどうやとか、あるいは、そういったところは別々にして奉
獻したらどうやという意見もございまして、何しろ今回の反省点におきましては、1つ
言えることは奉獻日、それぞれの奉獻日の打ち合わせ等が少なかったのではない
かなということをおもとしてちょっと反省している次第でございます。

そういったことの中で今後はですね、奉獻日の打ち合わせ、奉獻日ごとの打ち
合わせというものをもっとやっていく必要があるのではないかなということをおも
てしております。

◎小山 敏委員長
山本委員。

○山本正一委員

もう最後にしますが、ちょっとどうもすれ違いやな。奉献日の打ち合わせとか、その各団の考え方とかということよりも、遷宮対策室がどう考えておるんやということ、私は聞いておるわけなんや。そやでこれはもうすれ違いになるのでこれ以上は言いませんが、もうちょっとやっぱりしっかりしてもらわな困ると思うよ。やっぱりきつい立場で話をせんと非常に迷惑をかかっておる団もあるし、そういうことですやろ、それはあなた一番よく知っておると思うんですよ。もうちょっとやっぱりそこら辺をきちんと遷宮対策室としてこうなんやとか、そういうことをはっきりと事前にしておかんと、こういうことがおこってくるわけなんや。そやで、もうあえてこれ以上言いませんが、そういうことでよろしくお願ひします。

◎小山 敏委員長

産業観光部長、何かありましたら、いいですか、はい。
上田委員。

○上田修一委員

ちょっと具体的な中身の内容で。いろんな駐車場がつくられて、その駐車場からシャトルとか、いろんなことをされましたが、県外から来られた方の駐車場所というのはどういう形で対策をされたのですか。

◎小山 敏委員長

交通政策課長。

●岡交通政策課長

先ほどの御説明にありましたように、今回のお白石持行事の関係で、外宮及び内宮、それぞれの奉献の日についてはですね、基本的に駐車場がありませんでした。その関係もございまして、内宮につきましてはパークアンドバスライド、外宮につきましては臨時の駐車場を設けまして対応させていただきました。

◎小山 敏委員長

上田委員。

○上田修一委員

内宮については、高速からの流れがつないでいるけれども、外宮の場合はいったん降りてから、どちらに駐車場があるかという案内は、どの時点で、そういう高速から降りられる方、県道を走られる方へ案内されたのですか。

◎小山 敏委員長

交通政策課長。

●岡交通政策課長

想定といたしまして、高速道路から伊勢西インターへ降りて来訪される方と、御案内としまして、北のほうから、23号線などを通して来られる方をそれぞれ想定しながら誘導をさせていただきましたが、例えば伊勢西インターから降りられた方につきましては、看板及び誘導員等によって誘導をいたしておりました。

◎小山 敏委員長

上田委員。

○上田修一委員

誘導、外宮の場合、特に宮川の河川敷がわかりづらかったような気がするので、やっぱり高速から降りた人とか、そういう人の案内図というのですか、そんなのは渡されたのですか。

◎小山 敏委員長

交通政策課長。

●岡交通政策課長

いろいろと想定をしながらさせていただいておまして、例えば西インターから降りた方がですね、まずどういうルートでどういうふうに通るであろうという想定のところのポイント、ポイントに看板を立てると同時に、表立ったところとしましては、やはり看板誘導ということで、特に外宮領の時は、コースが奉獻車のために通れないということもありまして、どのルートを通して宮川の右岸へ乗用車を誘導するかということの工夫も行いながら、させていただきましたが、現場での対応でおおむねきれいに収まったのではないかなというふうには考えております。

◎小山 敏委員長

上田委員。

○上田修一委員

ありがとうございます。その件はもうそれで。

もう1点ですね、1ページのボランティアのところを書いてあるのですが、浜参宮などを書いてありながら、浜参宮のことがこの全体図の中には載っていないのですが、それとの整合性はどうされたんですか。

◎小山 敏委員長

観光事業課副参事。

●岩村観光事業課副参事

当然ですね、浜参宮自体も地元奉獻団及び特別神領民につきましては、1つの行事でございますので、そういう中、浜参宮も含めたつもりであげさせていただいておるつもりでおりますが、よろしく願いいたします。

◎小山 敏委員長

上田委員。

○上田修一委員

私、そういう意味じゃなくて、浜参宮とせっかく表題にあげてあって、ボランティアさんもおるのに、例えば内宮外宮さんのように何人いつから来て、どういう内容だというのを、やっぱり表示すべきじゃないですかということをお聞かせしてもらいました。

◎小山 敏委員長

副参事。

●岩村観光事業課副参事

まことに申し訳ございません。浜参宮におきましては、ちょっと今集計中でございますが、今手持ちでございますが、もっておるところだけ言わせていただきますと、浜参宮は地元奉獻団が71団、浜参宮に参加されまして、約1万7,000人、特別神領民につきましては7万3,000人が参加でございますが、その8割にあたります5万8,000の方が浜参宮へ来ていただいておりますような状況でございます。

◎小山 敏委員長

上田委員。

○上田修一委員

最後にしますけど、この浜参宮については多くの方が前日来ていただいて、泊まっていた。その時のホテルとか旅館は非常に満杯であったと思うのですが、ほとんどが鳥羽・志摩へ行かれたのではないかというふうに聞いているのですが、その状況はどうですか。

◎小山 敏委員長

観光事業課副参事。

●岩村観光事業課副参事

すいません、これにつきましてもあくまでも今速報値でございますけど、7万3,000人のうちですね、伊勢に来ていただいた方々、泊まられた方がそのうちの13%、13%が伊勢でございます、鳥羽が41%、志摩が14%というふうな割合になっております。

◎小山 敏委員長

吉井委員。

○吉井詩子委員

今回、酷暑の中、皆さまにおかれましては、大変このお白石持行事に御努力くださいます感謝申し上げます。

ちょっと救護の件についてお聞きしたいと思いますが、7割ぐらいの方が軽症であったという御報告をいただいたのですが、AEDの使用状況でありますとか、その点につきましてもちょっとお聞きしたいと思います。

◎小山 敏委員長

消防長。

●大西消防長

AEDの使用状況等について御説明いたします。

133名の救急搬送のうち、3名の方が119番通報時に呼吸をしていない、心臓も動いていない、いわゆる心肺機能停止の方が3名ございました。そのうち2名の方に関しまして、救急現場周辺の方のAEDの使用があったというふうに聞いております。

あと、AEDの使用に関しましてでございますけれども、周辺の店舗等のAEDをお借りしたという例も私のほうでは聞いております。

◎小山 敏委員長
吉井委員。

○吉井詩子委員

ありがとうございます。実は私その時に現場にいらっしやって、救護にあたったという市民の方とお話をいたしまして、その方は何度も救急の講習に行かれたということで、もう身についていたということで、そういうふうに聞きましたのでその大切さも教えていただきました。ちょっと関係ない話ですが、すいません。

それで、この資料1-4のこの救護の処置人数の平均年齢を見ますと、月曜日に極端に年齢が低かったりとか高かったりということがあります。それでこの月曜日を見ますと、やはり特別神領民の方が多いのかなということで、このような現象に関しましてどのような分析をされているのかお聞かせ願いたいと思います。

◎小山 敏委員長
観光事業課副参事。

●岩村観光事業課副参事

委員仰せのとおりですね、月曜日につきましては、地元奉獻団というのはいしておりませんので、月曜日自体は特別神領民の方々の参加だけになります。そういう中、特別神領民の方々は、全国から、もちろん、神宮さんを崇拝しまして来られておる方々ばかりでございますので、年齢的には非常に多いということの中で、正直申しまして、うちの本部としましても、もっと重症な患者さんが出るのかなというふうなことを思っておったわけでございますが、委員さん仰せのとおりですね、皆さんが救護態勢をとっていただいで、これだけで済んだということの中で、本当にありがたく感謝をしているような次第でございます。

◎小山 敏委員長
吉井委員。

○吉井詩子委員

やはりこの月曜日に高齢の方や小さい方が特別神領民で多く来られて、このように搬送をされているということがありますので、20年後に向けて、これはおもてなしということにもかかわってくると思いますので、また、よろしく対応のほうをしていただきたいと思います。ありがとうございます。

◎小山 敏委員長

他に御発言はございませんか。

はい、岡田委員。

○岡田善行副委員長

すいません、少し2点だけお聞かせください。

先ほど上田委員のほうから浜参宮の話がございました。私もボランティアで出させてもらいました。また、職員の皆さまもボランティアのスタッフの皆さんも大変な人数に出てもらって暑い中でやってもらったと思っております。

それでその中でまず1点目としましては、普通ですと浜参宮に来てもらったら二見の町中を歩いてもらってやるのですが、今回はちょうど五十鈴勢語庵さんというところの前まで行ってバスをとめて、そこから約300から400メートルを歩いてもらって二見プラザへ抜けていく。本当ならば駐車場を新しくして、ああいう状態だったら駐車場から歩かせるべきだとは思いますが、ただ、たぶん年齢的に年配の方が多いので向こうまでもっていったと思うのですが、そこら辺のいきさつがどうなっておったかだけ教えてください。

◎小山 敏委員長

観光事業課副参事。

●岩村観光事業課副参事

浜参宮におけますルートにつきましては、これもお木曳きと同様のルートをとらせていただいたわけでございます。お木曳きもこのお白石持ちと同様にですね、勢語庵のところで降りていただいて歩いていただいたわけでございますが、なにしろお白石持行事というのは8月ということの中で、とにかく特別神領民の方というのは、遠方のほうから来ていただいているわけでございまして、朝早く及び夜中にバスで走ってくるわけでございます。ずっとバスに乗られておりまして、すぐに浜参宮へ行きまして、その後、宿泊地へ、また、その宿泊地で泊まった次の日も朝5時ぐらいから早く出やないかんという中で、極力浜参宮におきましては時間を短くしたいというのが本音でございまして、もちろんそれには熱中症等々のことも加味しまして、そういうふうなルートを設定させていただきましたので御理解のほどよろしく願いいたします。

◎小山 敏委員長

岡田委員。

○岡田善行副委員長

わかりました。たぶんそうであろうとは思っていたのですが、本来ならば二見の町中を歩いてもらって、きちっとした浜参宮をしてもらうというのが一番いいと思っていますので、団とかいろいろ要望があると思いますので、できるなら本当は歩かせてもらいたいと思っております。

それで2点目ですが、これバス誘導等は確か職員さんがボランティアスタッフとして入ってもらっているのですが、あれに関しては完全なるボランティアでやってもらっているのか、職員がこちらのほうに出てきて一応仕事としての一貫としてやっているのか、どちらかお聞かせください。

◎小山 敏委員長

総合支所長。

●中村二見総合支所長

今の件は、私は二見総合支所長としまして浜参宮を担当させていただいておりますのでお答えさせていただきます。

土日、また、平日に及びましての職員のスタッフとしては職務として業務をさせていただいております。ただし、岡田委員御存じのように、休日に職員がボランティアとしても参加をしておりました。以上でございます。

◎小山 敏委員長

岡田委員。

○岡田善行副委員長

わかりました。確か、現場を見ていてそうだと思っておりました。でもいちおう基本的小おもてなしとして案内とか本部をする、そういうのはわかるのですが、バス誘導に関しては、基本的にこれはバス会社、旅行会社の収益事業ですよね。そう考えるとバスのストップするところの誘導係とか、そういうところに関しては本来ならばバス会社が、何社もありますので、その中から代表を出してもらったり、チームを組んでももらったりして、そういう方々が誘導するべきではないかと思うのですが、そういうことの方考え方はあったのでしょうか。

◎小山 敏委員長

総合支所長。

●中村二見総合支所長

結論から申し上げますとそういう考えはございませんでした。あくまでも伊勢市職員として、そのうち二見総合支所及び上下水道課の職員がそのバス誘導も含めて担当をするというふうにしておりました。

◎小山 敏委員長

岡田委員。

○岡田善行副委員長

わかりました。考えはなかったということですね。一般的に、これがもし収益事業ではなくて、本当におもてなし事業ならば僕もそれでいいと思っております。ただ、これに関してはかなりの金額を旅行会社は出してやってきているはずと思っております。そう考えるならば、やはりこういう単純にできることで、バス会社がやるべきことであろうことは、職員を配置するよりはバス会社にしてもらって、他のところのおもてなしに回ってもらうというのが筋だと思っておりますので、今回はそういう考えを持ってやっていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

◎小山 敏委員長

本件については、この程度で終わります。

【平成25年伊勢市の観光入込客数（神宮参拝者数）について】

◎小山 敏委員長

次に「平成25年伊勢市の観光入込客数（神宮参拝者数）について」の報告をお願いいたします。

観光企画課長。

●北村観光企画課長

それでは、平成25年12月までの伊勢市の観光入込客数、神宮参拝者数の今後の予測について御報告申し上げます。

資料2-1をごらんください。

現在伊勢市の観光入込客数は、内宮さん、外宮さんの参拝者数を合計した数字を1つの指標としてとらえて取り扱っています。この観光入込客数については、現在資料2-1の1で示すように1月から8月末までで約835万人となり、昨年対比で内宮さん134.0%、外宮さん160.1%の伸びとなりました。議員の皆さまも御承知のように神宮参拝者数は、明治29年から統計を取っておりまして、これまでは平成22年の年間参拝者数、

約883万人が最高でありましたが、ことしは既に9月15日で約887万を超え、過去最高の参拝者数となっています。

また、2の当初予測の観光入込客数については、平成24年12月現在で推計をした数字で、平成25年の観光入込客数を内宮さん749万8,000人、外宮さん310万2,000人、合計で1,060万人と予測させていただきました。

しかし現在の状況からみて、今後平成25年の観光入込客数、神宮参拝者数については、1,060万人をはるかに超えると予想されるため、今回予測を見直し、3のように平成25年の観光入込客数を約1,331万5,000人と予想させていただいたところです。

それでは、資料2-2をごらんください。

これは、ことしの神宮参拝者数と昨年と平成5年の前回御遷宮時を比較できるようにまとめたものです。

先ほども申し上げましたが、ことしの参拝者数は8月31日現在で約835万人となり、前回の遷宮の年の実数と比較すると、黄色で表示した部分ですが、ことしの3月と5月の参拝者数は、両宮ともに平成5年の遷御後である10月、11月の参拝者数と肩を並べるほどの数字となっています。

このことから、ことしの10月、11月は前回をはるかに超える観光客の皆さんにお越しいただけるのではないかと予想されます。

次に資料2-3をごらんください。

これは、先ほど申し上げた平成24年12月現在での参拝者推計1,060万人の月別の内訳で、過去の遷宮の動向や最近の傾向を加味して予測したものです。

次に、資料2-4をごらんください。

平成25年最終の神宮参拝客数を1,331万5,000人と予測したものです。左の表の2列目をごらんください。

これは、内宮さん、外宮さんの参拝者数を1月から8月までを実数、青く表示した9月から12月までは予測を示したものです。3列目は、平成24年12月現在で推計した1,060万人の内訳で、4列目は平成5年の実数をあらわしています。

9月から12月までの参拝者予測についての計算根拠ですが、上段の表をごらんください。修正1、修正2で示すように、9月と12月については、ことしの6月、7月の当初予測と実数の割合をかけて増加する方向で修正を行い、また、10月と11月については遷御後で、さらにたくさんの観光客が来ていただけると思われるため、8月の当初予測と実数の割合に10%を加えて増加する方向で修正を行い推計しました。

その結果、最終の予測値として、内宮さん859万2,000人、外宮さん472万3,000人、合計で1,331万5,000人とさせていただきました。

真ん中のグラフは、緑色の棒グラフが平成5年の実数、黒色の折れ線グラフは1,060万人と予測したもので、赤色の折れ線グラフが今回の約1,331万人と予測したものであります。

このことから、過去に例のない観光客の増加が予測され、今後は公共交通機関利用促進のさらなる呼びかけやパークアンドバスライド、バス用車線の設置、外宮の観光バスの回送先としての宮川左岸の活用を行うなど、観光客の皆さんに御迷惑のかからないよう受け入れ体制の充実を図っていきたいと考えております。

以上「平成25年伊勢市の観光入込客数（神宮参拝者数）について」御報告申し上げます。

何とぞよろしくお願い申し上げます。

◎小山 敏委員長

ありがとうございます。

本件は報告案件でございますが、特に発言がありましたらお願いします。

工村委員。

○工村一三委員

非常にたくさんの方が伊勢へということで、本当に喜ばしいことだと思っております。今ここに25年度の参拝者数予想を出していただきました。また、遷宮あるいは白石持ちにも関係することなのですが、この数字に関しまして、いろんな受け入れ態勢、誘致活動をしていただきましたけれども、旅行会社さんのほうの反応はどういうふうな反応があったかちょっとお聞きしたいと思います。

◎小山 敏委員長

観光企画課長。

●北村観光企画課長

旅行会社さんのほうから聞くとところによりますと、この10月、11月は社殿が新しくなって、神様も移ってもらうというところで、やはり今まで以上でない観光客の数、特にバスで来られる方が多いんじゃないかというふう聞いております。

◎小山 敏委員長

工村委員。

○工村一三委員

ありがとうございます。まあ、その、バスのことですが、実のことを言いますと、ある旅行会社さん、あるいは運転手さんからいろんな話を私もちょうとお聞きしております。次の遷宮あるいは来年に向けて少しお尋ねしたいことがございます。それはバスの駐車が有料になったということで、多少なりとも伊勢市にある程度の形でお金が落ちる

わけですが、この7月、8月の猛暑、その時にバスをとめていくわけですが、エンジンを切っておかなければならないということで、運転手さんの居所ですね、2時間、3時間待つところがないということで、非常に運転手さんに悪評があったと聞いております。それも旅行会社のほうを通じて話がいておるかと思えますけれども、その辺の対策をですね、また、これから冬になってきますと寒いということでどこにおったらいいかわからないと。2時間、3時間、寒いあるいはものすごい猛暑の中で、外で待っていないなければならないというふうなことで、私もだいぶ苦情をいただきました。その辺について対策を今考えておられるかどうかお聞かせ願いたいと思います。これバスで来てくれるお客さんが非常に運転手さん等に、あるいは会社等に影響があると思えますので、その辺の考えをお聞かせ願いたいと思います。

◎小山 敏委員長
観光企画課長。

●北村観光企画課長

旅行会社さんと話をする中で、先ほどの情報をいただいておりますが、運転手さん、確かにいらっしゃるというところは限られてくると思えます。運転手さんのおる場所というか、行き場所の部分につきましては、今後旅行会社さんともどのような状況が一番良いのかということも聞かせていただいております。今後ちょっと参考にさせていただきたいなというふうには思っております。

◎小山 敏委員長
工村委員。

○工村一三委員

ありがとうございます。せっかく伊勢に来ていただけるわけですが、運転される方が伊勢へ行くのは嫌やというふうな言葉も聞きますので、その点で例えば暖房室をつくるとか、待機場をつくるとか、冷房の効いたところで待っていただくとか、そんな大きなものはいらなくていいと思えますが、その辺も含めた形で今後検討をお願いしたいというふうに思います。以上です。

◎小山 敏委員長
他に御発言はございますか。
上田委員。

○上田修一委員

1点、この指標の中の考え方ですが、9月の連休があったときに高速の状況とか、県道の状況というのは、どういうふう把握されていますか。

◎小山 敏委員長

交通政策課長。

●岡交通政策課長

特に先日の3連休の時でございますが、中日の9月22日には、伊勢自動車道が伊勢西インターから最大で9.6キロの渋滞がおこっておりまして、ちょうど玉城インターまでが9.5キロでございますので、インターを超えて渋滞したという状況でございました。

◎小山 敏委員長

上田委員。

○上田修一委員

この予測の人数で、そういうことで大渋滞がされて、内宮さんも、外宮さんも降りられなかったということで、やっぱりたまにという考え方ではなくて、その時にパークアンドバスがされていなかったと思いますが、その辺との整合性をお聞かせください。

◎小山 敏委員長

交通政策課長。

●岡交通政策課長

仰せのとおりでございます。ただ、パークアンドバスライドをさせていただくときに、私、予算以外に3つの要素が必要と考えております。

その1つは、車をとめていただく駐車場があるのかないか、2点目がそのとめた方をその場所まで運ぶバスがあるのかないか、3点目は規制が必要ですので、警察さんが揃うか揃わないか、この大きく3つの要素が必要になるわけでございますが、今回、9月につきましては、行楽シーズンということもございまして、駐車場が確保できないということで、やむなく断念をいたしましたというところでございますのでよろしく願いいたします。

◎小山 敏委員長

上田委員、これ協議案件ではなくて報告案件ですので、ちょっとその辺を考えてください。

○上田修一委員

最後にします。この表と、観光のそういう流れの中でこういう数字が影響しないかどうかだけ確認して終わります。

◎小山 敏委員長

交通政策課長。

●岡交通政策課長

その数字の影響の部分については後ほど観光のほうからになりますが、今駐車場がないというお話をさせていただきました。今現在新たに駐車場の確保に努力をしております、10月以降の対策といたしましては、2カ所ですね、1,200台の場所を1カ所と400台の場所を1カ所ということで1,600台ふやす形の中で今後の対策については臨んでいきたいということで、その駐車場がこの9月には間に合わなかったということでございますので御理解賜りたいと思います。

数字のほうにつきましては観光のほうからお願いします。

◎小山 敏委員長

参事。

●須崎産業観光部参事

数字のほうでございますが、当然私どもが推計をした数字を元に交通政策課のほうで協議をさせていただいて、パークアンドバスライドの実施をする日を協議して決めていきたいというふうに思っておりますので、月別に推計をしまして、また、改めて協議をさせていただきますのでよろしく願いいたします。

◎小山 敏委員長

他に御発言はございませんか。

品川委員。

○品川幸久委員

ちょっと、観光入込客数の関係なんですけど、内宮さんと外宮さんの合計をもって観光入込客数としておるわけなんですけど、当然ダブルカウントがあるわけなんで、表面に出てくる数字としては非常に・・・、まあ、数字はよろしいんですけど、本当の観光入込客数としてですね、実際本当に観光客はどれだけ来たのかということろはしっかり把握せんとですね、例えば内宮さんに400万人、外宮さんに400万人来たら、それが800万人という数字だけで挙がってくるというようなことで、前の一般質問でも言わせてもら

ったのですが、例えば京都なんかはどうしておるんやろな、高山はどうしておるんやろなというようなところでちゃんとした本当の観光入込客数をとっていかんとです、いかんと思うんですよね。

もちろん今回の場合は、遷宮もありまして、地元の間もたくさん何回も行っておるわけなんで、それがイコール観光入込客数として発表されるというのは非常に危険なところがあって、対外的にはね、伊勢にはこれだけ来たんやと、1千万人が目標で、1千万人は軽く超えたよと、この勢いでいったら1,500万人ぐらいいくよなという、そういうありがたい話なんですけど。当該課としてね、きっちり今のやつが何パーセントここではじき出されて、実際に観光客として来てくれたのはどれだけ来てくれたんやろなという、およそのことでも把握しておらんとです、これいかんと思うんです、そこら辺はどう考えておられますかね。

◎小山 敏委員長
観光企画課長。

●北村観光企画課長

確かに以前、品川委員から御指摘をいただいて、以前から外宮さん内宮さんの合計数をもって観光客数にしておるといふような状況を述べさせていただきました。それで、そのうちの伊勢市の市民の方も参拝をされておるといふような状況の中でダブルカウントという話もございます。

今、観光振興基本計画の策定の中でGPSの調査事業というのをやっています。その中で外宮さんだけ来た部分、内宮さんだけ来た部分というのは、割合的な部分はわかっておりますので、その辺は…、市民の方は、はっきりとつかめませんが、その辺もつかんで、計画のほうへ反映していきたいなというふうには思っております。

◎小山 敏委員長
品川委員。

○品川幸久委員

そういうところだけしっかりともらっていただいてやっていただきたいと。

それで今回は当然観光入込客数がふえておると、今後もふえるという予想を立てられておるんであればですね、実は今回の補正予算に観光のリピーター獲得のための政策が実際には出ておらないかんと思うんです。もう当然、白石曳きの時からふえてくるのはわかっているんで、今までどおりの政策をうったらですね、一過性で終わっていくということが非常に懸念されるわけなので、できたらそのところで、リピーターを確保するために、こういうこともやろう、ああいうこともやろうということが実際の補正

で出てこなあかんかな。なんかパークアンドバスライドとか、そんなののお金がかかるよ、まあそれもひとつの方法ですけど、ただ、来ていただいた方がもう1回伊勢に行こうかなというような、そういう心をくすぐるような政策がなかったらいかんと思うのですよ。それを過ぎてしまったらね、その人がまた来てくれるかというのはわからないので、来たときにそれをうたんと意味がないと私は前から思っておるんですけど、そこら辺の考え方だけ言っただけならば、これは報告案件なのでそれ以上やあやあ言うことはないと思うんですけど、どうですかね。

◎小山 敏委員長
参事。

●須崎産業観光部参事

御意見ありがとうございます。当然ですね、今大事な時期だと思っております。ことは当初予算にも随分予算を計上させていただいて、これからマスコミとタイアップした事業とか、お正月に向けていろんなことをまた考えております。

来年度、おかげ参りが6月ぐらいまで当然続きますので、時期を逸することなく、来年度当初、また、緊急の事態がありましたら12月補正というのもありえるかもわかりませんが、前向きな予算に取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◎小山 敏委員長

いいですね、はい、本件についてはこの程度で終わります。

【サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出について】

◎小山 敏委員長

次に「サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出について」の報告をお願いします。

理事。

●奥野産業観光部理事

それでは、今回のサン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出につきまして御報告申し上げますので、よろしく願いいたします。

かねてより立地交渉を進めてまいりましたティアンドティ株式会社から本年9月17日付で、サン・サポート・スクエア伊勢への事業用地譲渡の申し出がございましたので、その企業進出の内容につきまして、配付させていただきました資料に基づきまして、そ

の概要につきまして、御説明申し上げますのでよろしくお願いいたします。

配付資料3-1ページをごらんいただきたいと存じます。

まず「(1) 進出企業の概要等」でございますが、企業名につきましては、先ほども申し上げたとおり、ティアンドティ株式会社でございます。

本社所在地につきましては、三重県伊勢市藤里町212番地1。

代表者は、代表取締役、手塚正之氏でございます。

創業につきましては、平成14年でございます。

資本金は1,000万円で、株式につきましては、非上場でございます。

年間売上高につきましては、平成24年7月から平成25年6月までの平成25年6月期で3億6,723万円でございます。

平成25年9月現在の従業員数につきましては、15名でございます。

事業内容につきましては、髪留めやヘアゴムなどのヘアアクセサリの製造と装飾品等の卸売業で、100円ショップを主として、各小売業に卸売りをされておられます。

続きまして「(2) 進出計画の概要」でございますが、今回の進出計画は、現在大半を外部委託している生産業務を自社工場で行い品質管理の向上を図るとともに、光触媒を使った新商品の開発を行うなど、製造部門を中心に事業拡大を目指すものでございます。これらの計画を可能にするため、サン・サポート・スクエア伊勢へ立地するものでございます。

進出場所につきましては、資料2ページ、サン・サポート・スクエア伊勢進出予定位置図をごらんいただきたいと存じます。

朝熊山麓の市所有地サン・サポート・スクエア伊勢のA-3区画で、面積は3,189.89平方メートルでございます。

第1期の建設計画につきましては、資料3ページ、計画配置図をごらんいただきたいと思っております。

建屋は鉄骨造り、平屋建てで、床面積が835平米でございます。

図面建物の中央及び右の赤色部分の394.2平方メートルが加工場で、左側の黄色部分251.5平方メートルが倉庫、上部紫色部分でございますが、155平方メートルが事務所、休憩室等のスペースとなっております。

恐れ入りますが、資料1ページに戻っていただきたいと存じます。

資料1ページの中段少し下、建設着手でございますが、平成25年12月に着手予定で平成26年4月に操業開始の予定をしていると伺っております。

次に投資計画でございますが、土地につきましては4,657万2,000円、以下、建物、償却資産につきましては、概算ではございますが、建物につきましては7,580万円、償却資産につきましては100万円、合計1億2,337万2,000円の計画であると伺っております。

次に生産計画でございますが、自社製造による生産拡大と新規販路開拓によりですね、5年間で売上高90%増を目標とするものであると伺っております。

次に、新工場の従業員数につきましては13名、新規雇用につきましては12名であると伺っております。

同社のサン・サポート・スクエア伊勢への進出は、高速道路のインターから近いため、交通アクセスに優れていること、また、周辺環境のよさなど進出の最適地と判断し、最終的に立地決定に至ったと伺っております。

これによりまして、地域における新たな雇用の場の創出、地域振興はもとより、地場産業の活性化に大きく寄与されるものと期待するものでございます。

最後に今後の予定でございますが、来る10月7日に企業立地協定書の調印、また、その後、速やかにですね、土地売買契約書の締結を予定いたしているところでございます。

以上、サン・サポート・スクエア伊勢への企業の進出につきましての御報告とさせていただきます。

何とぞよろしくお願いたします。

◎小山 敏委員長

ありがとうございます。本件は報告案件でございますが、特に発言がありましたらお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

◎小山 敏委員長

御発言もないようでありますので本件についてはこの程度で終わります。

以上で御協議願います案件は終わりましたので産業建設委員協議会を閉会いたします。

閉会 午前11時14分